



## 織 姫 神 社

桐生市市民文化会館の前庭にある織姫神社は、かつてこのあたり一帯にノコギリ屋根工場を連ねていた日本織物株式会社を偲ぶ数少ない場所である。

日本織物株式会社は、国産の縹子織物を生産する目的で明治23年（1890）に建設された。工場敷地は6万平方メートルを超え、欧米から力織機や撚糸機430台を導入し、動力源として渡良瀬川から水路を導きタービンで自家発電を行った。全国の機械制大工場の先駆けとして桐生の地に誕生した。

同社が生産した縹子織物の登録商標には川内の白滝神社の祭神・白滝姫の立ち姿が用いられ、「織姫朱子」の名前で販売、品質の良さから名声を博し、販路は海外にまで広がった。この白滝姫の恩恵に報いるために、白滝神社を会社の敷地内に分霊したのが織姫神社であり、ご神体として等身大の「白滝姫像」が制作された。織姫神社は会社の正門脇に置かれ、明治28年（1895）11月に鎮座祭が行われ、経営の中心にいた佐羽喜六が式辞を述べたという。

「白滝姫像」の作者は幕末から明治にかけて活躍した安本亀八であることが平成12年（2000）に調査補修をした際に判明した。明治期に技量と人気において松本喜三郎（桐生祇園・四丁目鉾スサノオノミコトの作者）と双璧だった生き人形師である。「白滝姫像」は三区・織姫自治会の住民により手厚く保存されており、貴重な“産業文化財”と言える。

官公庁街の中に残された織姫神社は、地域住民にとっては憩いの場所、平成24年秋には現代アートを街なかで展開するWATARASE Art Project2002の「やどりびプロジェクト」の会場となり、敷地内に昭和小学校の児童たちの手作り灯籠が飾られた。＝写真＝



安本亀八作の「白滝姫像」

●場所：桐生市織姫町2-5（桐生市市民文化会館敷地内）

機械制大工場の繁栄を偲ぶ  
官公庁街に残る歴史的空間